学　校　便　り　　琢磨

令和６年度　第 11 号　R6.10.7 三豊市立詫間小学校

栄光を讃える

敬称は略します。おめでとうございます。

【三観地区読書感想文コンクール】

優秀	４年　**桑田　和馬**　（自由図書「ジュンが教えてくれたこと」）		
〃	５年　**河田　唯花**　（課題図書「ドアのむこうはどんな国？」）		
優良	２年　**松井　景**	２年　**松田　幸大**	５年　**林本　依叶**	６年　**横下　蓮**
入選	１年　**井下　暖都**	３年　**林　風汰**	３年　**山下　詞葉**	４年　**松井　嘉乃**
〃	４年　**水口偉三郎**	５年　**則久　航志**	６年　**山下　和奏**	６年　**塩田　華恋**

本日の全校集会で表彰状の伝達を行いました。

授業参観、人権・同和教育講演会

９月 27 日（金）。授業参観と人権・同和教育講演会がありました。どの学年も「人権」についての授業を公開しました。６年生は、３クラス合同の授業で、当日に扱った教材『招かれなかったお誕生会』の作者のお子様ご夫妻（この詩に登場する女の子のご両親）をお招きしての学年全体授業でした。他の学年は、クラスごとに授業を公開しました。２学期最初の授業参観ということで、子どもたちは、大いに張り切って学習に取り組んでいました。

授業の後、「人権・同和教育講演会」が３階のパソコン教室で行われました。今回は、５年生親子と全会員を対象とした講演会でした。５年生の活動の様子を、多くの保護者の皆様が見守りながら、講師の話に耳を傾けていました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

６年生の学年全体授業の様子

１年生の授業の様子

９月の写真集より

学級委員任命式

砂場の石拾いボランティア

にぎりんピック

テント張りボランティア

私の勤務した学校　その４

（香川大学教育学部附属坂出小学校　平 11 年４月～平成 19 年３月）

香川大学教育学部附属坂出小学校は、当時は国立大学の附属学校でしたので、形式上は一度、香川県の教員を退職して新たに国の職員として採用されることになります。役職名は「教官教諭」で、職員室ではなく「教官室」と呼ばれていました。教官室とは別に、教科ごとに「研究室」という教官用の小部屋があり、私は国語科の教官でしたので、その部屋を３人で使っていました。

「附属に行けば家に帰れない」と噂には聞いていましたが、本当にその通りでした。当時は、５月に研究会が丸二日あり、４月１日からアクセル全開でスタートします。初日に学校を出たのが午前０時過ぎ、次の日からは、午前１時～２時でした。研究会が近づいてくると、私は、家に帰るのをあきらめて、３～４日、学校で寝泊まりしました。そうしているうちに教育実習生もやってくるのです。研究会が終わったすぐに教育実習生の公開授業があり、当時は、学生さんも岡山に帰る人は最終のマリンライナーに何とか間に合うようにと走って坂出駅に向かうといった状態でした。１年間、波はありますが、家で過ごす時間よりは学校で過ごす時間、家で食べるご飯よりは学校で同僚と食べるご飯の方が、はるかに多かったのです。附属に転勤した頃、娘は２歳くらいでしたので、家族にも一番迷惑をかけた時代でした。「働き方改革」などという言葉もない時代、早く帰ろうとしても帰ることができない、早く帰ろうとすると先輩に叱られる時代でした。

私たちは、香川大学の職員でもありましたので、大学の仕事もたくさん入ってきました。ある日曜日、私は、香川大学の国語学会で発表をしなければなりませんでした。しかし、その日は、妻も仕事があり、いつもは娘の面倒を見てくれる両親も旅行に行き、娘の面倒を見てくれる人が誰もいなかったため、私は３歳か４歳くらいの娘を学会に連れていき、発表の間、教育実習で私のクラスに来ていた学生さん（ちょうどその学会の手伝いをしていた）に発表の間、娘と遊んでもらい、発表の後のレセプションには、娘を連れて参加するという「子連れ狼」（古いテレビドラマ）みたいなことをやったこともありました。

そして、ここで初めて「人の授業を指導する」という経験もしました。校内研修といって校内で研究授業をする場合、附属の教員が講師として招かれることがあります。その他、研究会などでも指導者として招かれることがあります。それは、附属の教員は、専門教科については非常に先進的で深い知識があるとされているからです。そして、その指導ぶりを、校長先生を始めとする訪問先の先生方に評価されるのです。評価のフィードバックはありませんがすぐに分かります。指導が良いとまた呼ばれますし、悪いと二度と声がかかりません。今は知りませんが、当時は、どれだけ公立校に呼ばれるかということが、附属の教員の価値を決めると言っても過言ではありませんでした。ですから、いいかげんなことはできません。必死で勉強していかなければならないのです。そんなこともあって、附属学校の教員は、年中、とても忙しいのでした。

「とにかく早く三豊（もしくは観音寺）の学校に帰りたい、附属を出たい」と思いながら、１年、２年、３年…と過ぎていき、気が付けば８年間が経っていました。振り返ってみますと、８年間というのは、私が勤務した学校の中で最長の勤務年数となりました。その次が、詫間小学校で、トータル７年間です。８年間、苦しいこともありましたが、いいことだってたくさんありました。出会うはずもない人とたくさん出会いました。子どもたちも、保護者の皆様も、先生方も。私の愛車「スバル３６０（今から５７年前に製造された車)」だって、附属小学校のＰＴＡ役員さんが持っていた物を売っていただいたのです。当時の教育実習生の中には、今、教育委員会の指導主事になっている人がいて、本校のご指導もいただいています。

いつも私は「どんな経験であれ、人生にとって決して無駄なことはない。全てが良い経験だと思うことができる日がきっとくる。」と子どもたちに話していますが、この苦しく、嫌だった８年間の経験からくることは多いように思います。

そして、平成 19 年４月。私は、今度は、学校現場から離れて仕事をすることになります。勤務先は、「香川県教育センター」。つまり、教員ではなくなり、教育行政の仕事をすることになるのです。